

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090200177		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター松本筑摩		
所在地	長野県松本市筑摩2丁目33番22号		
自己評価作成日	平成26年10月15日	評価結果市町村受理日	平成27年3月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成27年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者一人ひとりの人格、プライバシーを尊重し、その人らしく毎日の生活を送り、安全に楽しく過ごして頂けるようサービスの提供を行なっている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「ニチイケアセンター松本筑摩」は本道より入り込んだ住宅街に、同母体のデイサービスと近隣に設置されている。利用者が行き来して地域の方々との交流を楽しみにされている。なお、介護・医療関連事業・教育事業を全国展開されている「(株)ニチイ学館」を母体に持ち「社是」誠意・誇り・情熱を掲げ「経営理念」を基に「ニチイケアセンター松本筑摩」独自の目標「第二の我が家」を作成し管理者は、職員に具体化した言葉で伝えケアサービスの実践に活かされている。年度初めに「業務ミーティング年間スケジュール」を作成し、各種研修を盛り込み職員の質の向上が図られるよう取り組まれている。重度化した場合の対応について、利用者、ご家族の不安と大きな関心事であった。ホームでは今年度「重度化した場合における対応に係る指針と同意書」を作成し、利用者、ご家族に説明される等、看取り体制を構築されている。先頃利用者、ご家族の納得が得られた終末期を迎えることができご家族から感謝の言葉を頂いたことを伺った。この経験が職員の大きな力となり質の向上につながっている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(よもぎ)		項目		項目	
項目		取り組みの成果 該当するものに印		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
		2. 利用者の2/3くらい			1. ほぼ全ての家族と
		3. 利用者の1/3くらい			2. 家族の2/3くらい
		4. ほとんど掴んでいない			3. 家族の1/3くらい
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
		2. 数日に1回程度ある			1. ほぼ毎日のように
		3. たまにある			2. 数日に1回程度
		4. ほとんどない			3. たまに
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
		2. 利用者の2/3くらい			1. 大いに増えている
		3. 利用者の1/3くらい			2. 少しずつ増えている
		4. ほとんどいない			3. あまり増えていない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
		2. 利用者の2/3くらい			1. ほぼ全ての職員が
		3. 利用者の1/3くらい			2. 職員の2/3くらい
		4. ほとんどいない			3. 職員の1/3くらい
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
		2. 利用者の2/3くらい			1. ほぼ全ての利用者が
		3. 利用者の1/3くらい			2. 利用者の2/3くらい
		4. ほとんどいない			3. 利用者の1/3くらい
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
		2. 利用者の2/3くらい			1. ほぼ全ての家族等が
		3. 利用者の1/3くらい			2. 家族等の2/3くらい
		4. ほとんどいない			3. 家族等の1/3くらい
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			4. ほとんどできていない
		2. 利用者の2/3くらい			
		3. 利用者の1/3くらい			
		4. ほとんどいない			

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(なのはな)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>ニチイ学館の経営理念を会議などで定期的に唱和を行い、その理念に基づいたホームの目標を立て、その目標に向け業務に努めている。</p>	<p>ニチイ学館の社是や経営理念を基盤にホーム独自の目標「第二の我が家」をたて具体化した内容で作成し職員に伝えている。管理者は実践を通して職員に伝えるとともに、職員会議やユニット会議のうちに唱和して共有化を図り、ケアサービスにつなげている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>散歩や、外出の機会を作りその際ご近所の方と交流を図っている。</p>	<p>地域に発信できるホームの新聞を発行して行事(七夕祭り、ニチイ祭り、敬老会等)に合わせ見学会について発信し、地域の方とお茶会など積極的に地域との交流に努めている。中学生の職場体験やボランティア活動、地域のボランティア(ハンドベル、腹話術、フラダンス等)との交流が図られている。また、利用者はセラピードッグとのふれ合いを楽しみにされている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の方の理解や支援方法を行事の参加や交流により、地域の人々に向けて活かしている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議で状況報告を行い、参加者全員より意見を聞き、その意見をスタッフ間で検討を行い、サービスの更なる向上に対する意見を活かしている。</p>	<p>運営推進会議には、ご家族、町会長、民生委員、包括支援センター職員等の参加を得て2か月に1回開催されている。会議の目的を提示して、ホームの状況、質疑応答を行い双方向的な会議となっている。出された意見を職員間で話し合いサービスの向上に反映されている。なお、推進会議の後にご家族のみで家族会を開催して建設的な意見や日頃の感謝の言葉が出されている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者との連絡を日頃から取り、情報の交換や相談など協力関係を築くよう努めている。(包括支援センター職員、認定調査員)	日頃から包括支援センター職員にホームの取り組み(利用者の重度化に向けて、また、利用者利用状況等)についての相談をされるなど協力関係の構築に努めている。なお、利用者の介護認定更新の際調査員に情報提供を行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定期的に会議などで研修会勉強会を行い、職員全員が身体拘束について理解を深め身体拘束を行わないケアに努めている。	定期的に行っている職員会議等において、研修会や勉強会を行い身体拘束をしないケアの理解と実践について学び、鍵をかけた暮らしの大切さについて認識を深めケアサービスに取り組まれている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修会の機会を作り、虐待についての理解を深め、虐待のないサービスや日々の業務の中で虐待が見過ごされることがないように努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象となる入居者がいないため、日常支援事業、成年後見制度について今後勉強会の機会を持ち、活用できるよう取り組んでいきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、十分な説明を行い質問なども受け安心して納得して契約が行なわれるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会時、電話などにより気軽に意見、要望を話せる環境を作り、又運営推進会議にても意見交換の場を持ち、運営の向上につながるよう努めている。	面会や家族会出席時に、ご家族の意見や要望等を頂くとともに、日常の関わりの中で利用者の思いや希望の把握に努め運営に反映されている。なお、ご家族が遠方の方には電話やショートメール等を活用して意向確認が行われている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場や日常的にも職員から意見や提案を聞き反映できるよう努めている。又定期的に個人面談を行い、職員個人の意見を言いやすい機会を作っている。	管理者は利用者や職員の馴染みの関係に配慮しており、職員の勤務体制や移動の配慮に努めている。日頃から職員との意見交換に努めるとともに、定期的な個人面談を行い職員との意思疎通を図り運営に反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップ制度、個人面談の実施や、日頃の会話の中で各自が向上心を持って働けるよう現場環境、条件の設備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に関われる研修会や講義の参加を促している。又職員一人ひとりの力量を把握し、働きながらトレーニングしていくことを進め、育成に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や、講義の参加により同業者との交流を深め、意見交換をすることによりサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人とのコミュニケーションを図りその会話の中から本人が感じている不安や意見を聞き入れ安心するための関係づくりに努めている。入居したばかりの方には、声かけを行なう。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ホームの見学、事前の面談等家族との話し合いの時間を多く持ち、その中から不安や要望に耳を傾け関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の状況又家族からの要望を聞きながら、その時必要としているサービスであれば、他のサービス利用も提案している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者一人ひとりを尊重し、できることをやって頂き、お互い協力し共に暮らしていくための関係を築いていけるよう努めている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族がいつでも面会に来られるような関係を作り、面会に来られた際は家族と本人の時間を大切にして頂けるよう環境づくりに努めている。会ってみたい人の写真を家族より持ってきて頂く。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>できるだけ本人と関わる多くの方に、面会に来て頂けるような環境作りを行い、必要に応じて家族に外出の相談を行っている。会ってみたい人の写真を家族より持ってきて頂く。</p>	<p>利用者の友人や近所の方の訪問、近隣の母体施設(デイサービス)との連携により、馴染みの人や場との関係が築かれ支援に努めている。なお、電話の取次ぎや手紙(年賀状等)の支援にも努めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>共同生活の中で入居者一人ひとりが協力しあって生活が行なえるよう、コミュニケーションの援助を行い、その中で関係作りができるよう努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスの利用が終了後も家族からの相談等あればこれまでの関係性を大切に、援助を行なっている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向をコミュニケーションの中から把握し、困難な場合は定期的な会議で話し合い、家族にも報告し検討していただいている。呟きを日報に書き留めている。</p>	<p>利用者一人ひとりの日常の関わりの中より得られた思いや希望の把握に努めるとともに、ケアの中で洩らされる利用者の「つぶやき」を記録して希望や意向の把握につなげている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族からの話、又本人の昔の話、思い出などを聞き、センター方式の記録を行い、経過の把握に努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>入居者一人ひとりの生活状況、心身の状態を記録し現状の把握に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>現状の課題について定期的にモニタリング、カンファレンスを行い、関係者からの意見やアイデアを反映させた介護計画を作成している。家族には計画書作成前に意向を伺っている。</p>	<p>日頃の関わりの中で得られた利用者やご家族の意向を取り入れ、アセスメントを含め職員間での意見交換や定期的にモニタリング、カンファレンスを行い利用者本位の暮らしを反映した介護計画書を作成されている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>入居者一人ひとりの様子を日々介護記録に記入し、職員間で情報を共有している。又緊急を要するものは、タイムリーに、職員に介護方法を指導している。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズを、1つの考えに捉われず、色々な意見を聞くことにより、柔軟な支援が行えるように努めている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が地域の中で安全で楽しく暮らしを送ることができるよう支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族が希望するかかりつけ医師と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援を行っている。受診、健康管理記録の利用により連携を図っている。</p>	<p>利用者、ご家族が希望されているかかりつけ医による受診支援が行われている。現在入居前のかかりつけ医による月1回の往診や協力医による受診等、ホームの情報提供により、適切な医療を受けられるよう支援されている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎月4回の訪問看護により入居者一人ひとりの、体調や状態の変化など、情報交換を行い、適切な受診、看護がうけられるように支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院の際は病院関係者との情報交換や相談に努めている。又そうした場合に備えて病院関係所との関係作りに努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>定期的に本人の状態を家族に報告し、現在の状態を把握していただいている。本人家族との話し合いの中で方針(看取りなど)を共有し、関係者と共に本人や家族が望む終末期の生活を送れるよう支援に取り組んでいる。</p>	<p>ホームでは「重度化した場合における対応に係る指針、同意書」を作成して医療、訪問看護師との連携・協力を図り、看取り体制を築かれている。今年度は一名の看取りが行われ利用者やご家族の気持ちの変化に注意を払いながら、安心と納得が得られるような看取りが行われたことを伺った。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に急変や事故発生時に備えて講習会、訓練を行い実践力を身に付けている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難訓練を実施(地震、火災)。事前に地域の方に報告を行い、情報交換を行うことにより、地域との協力体制を築いている。防災訓練記録に消防署の指導、地域の方の意見等を記載し、今後活かしている。</p>	<p>年2回(昼・夜想定)を踏まえ消防署の協力を得て防災訓練を実施されている。なお、訓練時に得られた消防署の指導や、地域住民の意見を書留め職員間で話し合い今後につなげている。</p>	<p>ホーム利用者の高齢化に伴い身体機能の低下が見られ、年々車椅子利用の方が増加しており、災害時に職員だけの誘導が限界と思われる。日頃より地域住民や警察署、消防署等との連携を図り、協力体制を築かれるよう期待する。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を重視し、プライベートを尊重し、声がけに注意した対応をしている。	接遇研修を実施して利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないケアの徹底に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表すことのできるような声がけや、促しを行い自己決定できるような環境作りに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その日一日を希望に添ってその人らしい生活が送れるよう支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の身だしなみやおしゃれに対する意欲がなくなるような声がけや環境を作っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできることをやって頂き、役割を持つことで、食事を楽しく摂れるよう支援している。	食事に關する一連の作業の中で利用者の力が発揮できる場面(野菜の下ごしらえや浅漬け等)を見つけて支援されている。メニューについても利用者と一緒に話し合い、時にはお寿司やウナギ等を提供し食欲を高め、食事を楽しめるよう努めている。	グループホームの特性を踏まえて、職員も利用者と一緒に食事を摂り、楽しめるあり方を前向きに検討されるよう期待する。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調の状態や習慣に応じ、一日に必要な栄養バランス、水分量が確保できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に口腔ケアを実施し、口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりトイレでの排泄が行えるよう、その方に合ったトイレ誘導、声かけなどの支援を行っている。</p>	<p>利用者一人ひとりの排せつ記録により排せつパターンを職員間で周知して、排泄の自立に向けた支援に努めている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便記録により排便状態の把握を行う。便秘の原因や及ぼす影響を理解し、バランスの摂れた食事やヨーグルト、豆類、水分の摂取に努め、毎日の運動の機会により便秘予防に努めている。必要に応じ、薬も行い考慮している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>一人ひとりの体調や希望に合わせ、スキンシップ、1:1の会話など個々に添った支援を行い、入浴の時間を楽しくして頂けるよう努めている。</p>	<p>利用者一人ひとりの希望に沿った支援に努めるとともに、季節風呂(柚等)を用意して楽しい入浴につなげている。なお、利用者の力を活かしながら、声掛けをしたり、必要に応じて介助をされている。、重度者には二人対応をされる等、また、同性の職員が対応し、羞恥心への配慮もされている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活習慣や状況に合わせた休息ができ、安心して気持ちよく眠れるよう支援を行っている。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>一人ひとりの薬の目的や副作用、用法、用量を全職員が理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や、習慣を活かした役割を見つけ張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。紙芝居、歌、方言かるた遊びなど工夫しながら気分転換に努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の方に協力をしてもらいながら、本人の希望に添って外出の機会が持てるよう支援を行っている。運営推進会議、家族会などで外出のボランティアへの要請を呼びかけている。	グループホーム内にこもりきりにならずに外出することは、利用者の喜びや楽しみ、心身の力の発揮に欠かせないことを認識されており、ホーム周辺への散歩(車椅子利用者も)や利用者と相談しながら、花見や紅葉狩り等に出かけている。	利用者の身体機能が低下する中での気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会が得られるような工夫に期待する
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理をしているが、希望があればお金を使えるように支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも家族や友人などに連絡や手紙のやり取りができるよう支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時に季節に合わせて模様替えを行い、入居者にとって不快や混乱をまねくような刺激がなく居心地よく過ごせるよう努めている。	居間兼食堂は、採光もよく室内温度も適温で台所からの匂いより生活感が得られるなど、利用者は快適に過ごされている。居間や廊下には、利用者が制作された「はり絵や行事写真等」が飾られゆったりと居心地よく過ごすことができるよう配慮されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方が一日の中で一人になれたり、仲間との時間を過ごしたりと思い思いに過ごせるよう、居場所の工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人や家族と相談を行い、使い慣れたものや馴染みのあるものを置き、今まで住み慣れた環境に近い空間で居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	居室には利用者が馴染み大切にしてこられた品(仏壇、テレビ、家族写真、生花、衣類等)を持ち込み利用者一人ひとりの居心地の良い仕様となるよう配置されている。(仏壇には季節の花や供え物をされている)	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かし、出来ることや、わかることを安全に行え、自立した生活が送れるよう工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>ニチイ学館の経営理念を会議などで定期的に唱和を行い、その理念に基づいたホームの目標を立て、その目標に向け業務に努めている。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>散歩や、外出の機会を作りその際ご近所の方と交流を図っている。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の方の理解や支援方法を行事の参加や交流により、地域の人々に向けて活かしている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議で状況報告を行い、参加者全員より意見を聞き、その意見をスタッフ間で検討を行い、サービスの更なる向上に対する意見を活かしている。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者ととの連絡を日頃から取り、情報の交換や相談など協力関係を築くよう努めている。(包括支援センター職員、認定調査員)</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定期的に会議などで研修会勉強会を行い、職員全員が身体拘束について理解を深め身体拘束を行わないケアに努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修会の機会を作り、虐待についての理解を深め、虐待のないサービス又日々の業務の中で虐待が見過ごされることがないように努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象となる入居者がいないため、日常支援事業、成年後見制度について今後勉強会の機会を持ち、活用できるよう取り組んでいきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、十分な説明を行い質問なども受け安心して納得して契約が行なわれるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会時、電話などにより気軽に意見、要望を話せる環境を作り、又運営推進会議にても意見交換の場を持ち、運営の向上につながるよう努めている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場や日常的にも職員から意見や提案を聞き反映できるよう努めている。又定期的に個人面談を行い、職員個人の意見を言いやすい機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップ制度、個人面談の実施や、日頃の会話の中で各自が向上心を持って働けるよう現場環境、条件の設備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に行われる研修会や講義の参加を促している。又職員一人ひとりの力量を把握し、働きながらトレーニングしていくことを進め、育成に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や、講義の参加により同業者との交流を深め、意見交換をすることによりサービスの質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのコミュニケーションを図りその会話の中から本人が感じている不安や意見を聞き入れ安心するための関係づくりに努めている。入居したばかりの方には、声かけを行なう。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学、事前の面談等家族との話し合いの時間を多く持ち、その中から不安や要望に耳を傾け関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況又家族からの要望を聞きながら、その時必要としているサービスであれば、他のサービス利用も提案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりを尊重し、できることをやってみて、お互い協力し共に暮らしていくための関係を築いていけるよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも面会に来られるような関係を作り、面会に来られた際は家族と本人の時間を大切にして頂けるよう環境作りに努めている。会ってみたい人の写真を家族より持ってきて頂く。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ本人と関わる多くの方に、面会に来て頂けるような環境作りを行い、必要に応じて家族に外出の相談を行っている。会ってみたい人の写真を家族より持ってきて頂く。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で入居者一人ひとりが協力しあって生活が行なえるよう、コミュニケーションの援助を行い、その中で関係作りができるよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了後も家族からの相談等あればこれまでの関係性を大切に、援助を行なっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向をコミュニケーションの中から把握し、困難な場合は定期的な会議で話し合い、家族にも報告し検討していただいている。呟きを日報に書き留めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの話、又本人の昔の話、思い出などを聞き、センター方式の記録を行い、経過の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活状況、心身の状態を記録にし現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の課題について定期的にモニタリング、カンファレンスを行い、関係者からの意見やアイデアを反映させた介護計画を作成している。家族には計画書作成前に意向を伺っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの様子を日々介護記録に記入し、職員間で情報を共有している。又緊急を要するものは、タイムリーに、職員に介護方法を指導している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズを、1つの考えに捉われず、色々な意見を聞くことにより、柔軟な支援が行えるように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が地域の中で安全で楽しく暮らしを送ることのできるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族が希望するかかりつけ医師と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援を行っている。受診、健康管理記録の利用により連携を図っている。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎月4回の訪問看護により入居者一人ひとりの、体調や状態の変化など、情報交換を行い、適切な受診、看護がうけられるように支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院の際は病院関係者との情報交換や相談に努めている。又そうした場合に備えて病院関係所との関係作りに努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>定期的に本人の状態を家族に報告し、現在の状態を把握していただいている。本人家族との話し合いの中で方針(看取りなど)を共有し、関係者と共に本人や家族が望む終末期の生活を送れるよう支援に取り組んでいる。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に急変や事故発生時に備えて講習会、訓練を行い実践力を身に付けている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難訓練を実施(地震、火災)。事前に地域の方に報告を行い、情報交換を行うことにより、地域との協力体制を築いている。防災訓練記録に消防署の指導、地域の方の意見等を記載し、今後活かしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を重視し、プライベートを尊重し、声がけに注意した対応をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表すことのできるような声がけや、促しを行い自己決定できるような環境作りに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その日一日を希望に添ってその人らしい生活が送れるよう支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の身だしなみやおしゃれに対する意欲がなくなるような声がけや環境を作っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできることをやって頂き、役割を持つことで、食事を楽しく摂れるよう支援している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調の状態や習慣に応じ、一日に必要な栄養バランス、水分量が確保できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に口腔ケアを実施し、口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりトイレでの排泄が行えるよう、その方に合ったトイレ誘導、声かけなどの支援を行っている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便記録により排便状態の把握を行う。便秘の原因や及ぼす影響を理解し、バランスの摂れた食事やヨーグルト、豆類、水分の摂取に努め、毎日の運動の機会により便秘予防に努めている。必要に応じ、薬も行い考慮している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>一人ひとりの体調や希望に合わせ、スキンシップ、1:1の会話など個々に添った支援を行い、入浴の時間を楽しくて頂けるよう努めている。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活習慣や状況に合わせた休息ができ、安心して気持ちよく眠れるよう支援を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や副作用、用法、用量を全職員が理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や、習慣を活かした役割を見つけ張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。紙芝居、歌、方言かるた遊びなど工夫しながら気分転換に努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の方に協力をしてもらいながら、本人の希望に添って外出の機会が持てるよう支援を行っている。運営推進会議、家族会などで外出のボランティアへの要請を呼びかけている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理をしているが、希望があればお金を使えるように支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも家族や友人などに連絡や手紙のやり取りができるよう支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時に季節に合わせて模様替えを行い、入居者にとって不快や混乱をまねくような刺激がなく居心地よく過ごせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方が一日の中で一人になれたり、仲間との時間を過ごしたりと思い思いに過ごせるよう、居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人や家族と相談を行い、使い慣れたものや馴染みのあるものを置き、今まで住み慣れた環境に近い空間で居心地良く過ごせるよう工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かし、出来ることや、わかることを安全に行え、自立した生活が送れるよう工夫している。		

目標達成計画

作成日：平成27年3月9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	消防署立会いによる、火災訓練はしているが、地域住民との連携がとれていない。	消防署、警察署、地域住民との連携を図り昼夜問わず利用者の避難ができる。	日頃より地域住民や警察書、消防署と連携を図り、定期的な避難訓練を行う。	6ヶ月
2	49	年に2回は車で戸外に出ているが、定期的に散歩ができていない。	ホームの回りでもいいので、散歩に行く。	ホームの周りは環境もよく、畑もあり季節を感じるので、できるだけ戸外にでるよう心掛ける。	6ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。